

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	その他指導内容や指導方法において特徴ある工夫が行われている実践事例
-------	-----------------------------------

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

山形県東田川郡庄内町

○学校名

庄内町立余目第二小学校

○学校のURL

<http://www.town.shonai.yamagata.jp/gakkou/2syou/index.html>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 1・3 学年各 1 学級、 2・4・5・6 学年各 2 学級
【特別支援学級】 2 学級 【合計】 12 学級

○児童生徒数

【全校児童】 247 人（平成 24 年 11 月 1 日現在）
（内訳： 1 年生 31 人、 2 年生 39 人、 3 年生 35 人、 4 年生 51 人、
5 年生 48 人、 6 年生 43 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

夢を持ち、未来を拓く子どもの育成

【人権教育に関する目標】

ともによりよい生き方を目指す教育の実現～響き合いのある学びを通して～

○人権教育にかかる取組の全体概要

- (1) 人権教育を基盤とし、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実
- (2) 豊かな地域素材の活用
 - ・ チャレンジキャンプや農業体験学習などを通していのちのつながりを知る。
 - ・ 地域のお祭り（夏宵祭り）に参加し、ふるさとの伝統やそこに住む人々を大切に
する心を学ぶ。
- (3) 自主・自立を育む児童会活動の推進
 - ・ あいさつ運動を通して、相手意識を高め、人とのつながりの大切さを知る。
 - ・ 縦割り班で地域を歩くこと（ひまわりチャレンジウォーク）で、地域に対する
愛着を深め、互いに協力する意識を高める。

3. 特色ある実践事例の内容

<1>人権教育を基盤とし、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実

①取組のねらい、目的

- ・道徳教育は、人権教育を基盤として、他教科・領域と効果的に関連づけ、家庭や地域と連携しながら道徳の時間を要として補充・深化・統合を図っていく必要がある。そこで、本校では、ねらいを達成出来るように、他教科・総合的な学習・学校行事等との関連を図りながら、1～2ヶ月のスパンで単元を組んで指導している。

②他教科等との効果的な関連を図る道徳教育の計画（1年生の例）

主題 大切な いのち		ねらい たくましく生き抜く生き物の姿や生命誕生の喜びを通して、かけがえない生命を大切にしようとする心情を育てるとともに、自分を支えてくれる家族に対する感謝の心を持ち、家族の役に立とうとする態度を育てる。	
月	9月～10月まで		
段階及び期待する児童の意識の流れ	つかむ お母さんから生まれた小さな命は、一生懸命に生きようとしているんだな。	深める たくさんの人から大切に思われ、生まれてきた生命を大切にしていこう。	広げる 自分を大切に思ってくれる家族のために、手伝いなど役に立つことをしよう。
道徳	生命尊重 3－(1) 主題名「生きるたくましさ」 資料名「うみがめの赤ちゃん」 たくましく生き抜く生き物の姿を知り、生命の大切さに気づかせる。	生命尊重 3－(1) 主題名「生まれるってすごいな」 資料名「あかちゃんがうまれるよ」 人が生まれることのすばらしさを感じ、生命を大切にしようとする心情を育てる。	家族愛 4－(3) 主題名「かぞくのためにできること」 資料名「いいおばけ」 進んで家の手伝いをしようとする気持ちを育て、家族に対して感謝の心や親愛の情をもたせる。
生活	ぐんぐんのびろ ・秋植え球根の植え付けと世話、観察をする。	みんなだいすきだよ ・家族のよさを知り、進んで自分ができる手伝いをする。	
学級活動	命の大切さと家族の愛 ・妊娠 9 ヶ月のお母さんのお話を聞くことで、家族の愛情を知る。	性教育「おとこのこおんなのこ」 ・男女の体について知り、命を育む仕組みを大切にしようとする。	
日常生活 (朝の会、帰りの会)	朝の会「今日のめあて」 ・1 日のめあてを持ち、友だちと一緒にがんばっていこうとする思いを持つ。 帰りの会「友だちへのありがとう」「友だちのがんばり」 ・友だちの良さやがんばりを認め合い、感謝の心を持つ。 「今日の振り返りタイム」 ・今日の自分のがんばりや友だちのよさを振り返る。		

③他領域との関連を図りながら深化させることをねらう道徳の授業（1年生の例）

(1) 主題名「生まれるってすごいな」

中心価値 3－(1)生命尊重 関連価値 4－(3)家族愛

(2) 資料名「あかちゃんがかうまれるよ」

(3) ねらい 弟が生まれた時、それを見守っているまわりの人や「わたし」の気持ちを考えることを通して、人が生まれることのすばらしさを感じ、生命を大切にしようとする心情を育てる。

(4) 人権教育との関連

生命が誕生するすばらしさや喜びに気づかせることを通して、家族やまわりの人たちから温かく見守られている命を大切にしようとする心情を育てる。

(5) 補充・深化・統合について

家族の誕生に立ち会い、誕生・生命の大切さを感じる機会は少ない。新しい生命の誕生によってお姉さんになる主人公の気持ちを考えることで、自分の命も大切に守られていることに気づかせていく。(深化)

(6) 本時の展開

段階	学習の流れと主な発問	○指導上の留意点・教師の支援	児童の反応
導入	1. 誕生にかかわる体験について話し合う。 ○弟や妹が生まれたとき、どんな気持ちでしかた。	○誕生にかかわる自分の体験について発表させ、体験児童の思いを引き出す。 ・身近な赤ちゃんの誕生を体験した児童が少ないので、生まれて間もない赤ちゃんを見たときの思いなども取り上げていく。	・とてもうれしかった。 ・小さかった。 ・かわいかった。 学級活動で、お腹に赤ちゃんのいるお母さんの気持ちを聞いたことで、お母さんの気持ちを想像することができる。
展開 前段	2. 資料「あかちゃん が う ま れ る よ」を読んで話し合う。 ○おなかをなでるお母さんと「わたし」は、どんなことを話しているのでしょうか。 ○「おとうと」が生まれたとき、それを見守っているまわりの人たちは、どんな気持ちでしょうか。 ◎おっぱいをぐんぐんのむ赤ちゃんを見て「わたし」はどんなことを感じているのでしょうか。	○範読しながら場面絵を提示し、誕生までの心情の変化や喜びを共感できるようにする。 ○もうすぐ生まれる状況を思い浮かべさせることで、誕生の喜びを感じ取らせる。 ○動作化をすることで、誕生の不思議さについて感じ取らせる。 ○「おとうと」の誕生をきっかけに、生命の誕生を期待したり、心配したり、喜んだりする周囲の人の思いに気づかせる。 ○生まれたばかりの弟の姿から、誕生の喜びを感じ取らせる。	・よく、動くよ。 ・元気な赤ちゃんを産んでね。 ・生まれてうれしい。 ・元気に育ってほしい。 ・お姉ちゃんになってうれしいな。 ・かわいいな。 ・一生懸命だな。 ・生まれてきてよかったね。 ・生きているんだね。
後段	3. 家族からの手紙を読み、思いを発表しあう。 ○家族からの手紙を読みましよう。 ○家族からの手紙を読んで思った事を教えてください。	・事前に、保護者に児童が生まれたときのことや、児童の「命」に対する思いを手紙にしていっていただく。 ・大事にされて生まれ育ってきた自分や友だちであることを再認識し、自分の行動を振り返らせる。	・私のときも、うれしかったんだ。 ・家族が喜んでくれたんだな。 ・ぼくも大事にされたんだな。 自分が家族から大切にされていることを知ること家族の愛情を感じ、自分も家族のためになにかしたいという思いを持つことが、次時の道徳の布石になる。

		○思った事をみんなに発表することで喜びを共有し、命を大切にしようという気持ちを高めていけるようにする。	命の尊さを実感したことで、この後の学級活動「おとこのこ おんなのこ」の学習に抵抗なく入ることができる。
終末	4、小さかった頃の写真を見る。	・小さかった頃の写真を見て、家族に大切にされている自分を感じて終われるようにする。	



<2>豊かな地域素材の活用

①取組のねらい、目的

- ・チャレンジキャンプや農業体験学習などを通して、自然の偉大さを感じるとともに命のつながりを知ることができる。
- ・地域のお祭り（夏宵祭り）に参加することで、ふるさとの伝統を大切に思う心や地域の活性化を願う人々の思いを感じ、自分たちも地域に対する愛情を深めることができる。

②取組みの内容

（1）チャレンジキャンプ

毎年、5年生が地元の自然の家「森森」を活用し、川遊びや月山登山を通して自然の偉大さや自然のすばらしさを体験している。そこでは、友だちと協力しながら2泊3日のチャレンジキャンプを乗り越えることで友情を育むことができた。



（2）農業体験学習

5・6年生が田植えと稲刈りの作業を体験することで、農作業の大変さを実感できた。また、米を作る人が一粒の米も無駄にしないという気持ちで仕事をしていることを直接お聞きし、仕事に対する誇りと命を育む食物の大切さを感じることができた。



（3）夏宵祭り

地域のお祭りである夏宵祭りが発足し、継続してきた経緯について地域の方からお話していただいた。地域を守り育てていく熱い思いを伝えていただくことで、子どもたちも地域の



員であることを自覚し、地域の活性化に向けて自ら活動することができた。



<3> 自主・自立を育む児童会活動の推進

① 取組のねらい、目的

- ・あいさつ運動を通して、相手意識を高め、人とのつながりの大切さを知ることができる。
- ・縦割り班で地域を歩くこと（ひまわりチャレンジウォーク）で、地域に対する愛着を深め、互いに協力する意識を高めることができる。

② 取組みの内容

（１）あいさつ運動

児童会の大きな目標として、あいさつ運動を取り上げている。児童会の運営委員が取組みを考えて実践することはもちろんであるが、月ごとに学年に担当が割り当てられ、学年の創意工夫の元にあいさつ運動が繰り広げられるところが本校の特徴である。ある学年では、あいさつのいい児童に自作のパズルのピースを渡すという方法で取り組んだ。児童は、パズルを完成させたくて一生懸命あいさつをし、パズルのピースを集めて完成させては、大変喜んでいて。また、町でもあいさつ運動に取り組んでおり、町で作ったのぼりを持ってあいさつを呼びかけたこともあった。

（２）ひまわりチャレンジウォーク

児童会行事としてひまわりチャレンジウォークを実施してきた。ひまわりチャレンジウォークとは、縦割り班ごとに地域を歩いてまわり、地域に関するクイズを解いたり、班毎に協力してゲームに取り組んだりする行事である。この行事を通して、地域に対する愛着を育むことができた。また、上学年の児童が下学年の児童の面倒を見ながら歩き、中には荷物を持ってあげたり、1年生をおんぶしてあげたりする姿も見られ、思いやりの心を育むこともできた。

4. 実践事例の実績、実施による効果

- ・人権教育を基盤として、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実を図ったことにより、他領域と道徳が有機的に関連し、相乗効果を生み出しながら道徳価値を育むことができた。また、上記の実践を通して、自他を大切にする人権意識も育ってきた。
- ・チャレンジキャンプを通して自然の雄大さを実感するとともに、友だちと協力して困難を乗り越えることで、互いのよさを認め合う真の友情を育むことができた。
- ・農業体験学習を通して、農作業の大変さを体感するとともに、命を育む食物の大切さや、目に見えないところで苦勞されている方々への感謝の気持ちを育むことができた。
- ・夏宵祭りの学習をし、実際に夏宵祭りへ参加することで、自分たちも地域の活性化の一翼を担っているという自覚を高めるとともに、郷土に対する誇りと郷土を

大切に思う地域の方々の思いを受け継ぐことができた。

- ・児童会と地域が一体になってあいさつ運動に取り組んだことで、あいさつの大切さを実感し、人とのかかわりの大切さを理解することができた。
- ・ひまわりチャレンジワークを通して、地域を知り、協力の大切さを自覚し、思いやりの心を育むことができた。

5. 実践事例についての評価

＜1＞取組についての評価、及び評価に対する理由

- 人権教育を基盤とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育の指導、豊かな地域素材の活用、自主・自立を育む児童会活動の推進を通して、自尊感情や自己有用感が高まってきた。また、自分の命はもちろん周りの人の命や存在の大切さも意識し、お互いの人権を尊重しようとする態度も育ってきている。

＜2＞現在、実施にあたって課題と感じているところ

- 他教科・領域との効果的な関連を図る道徳教育の計画については、担任の創意工夫に任されている部分が多いので、これからは学校として組織的・継続的に取り組んでいくようにするためにはどうするかが課題となっている。
- 校内で高まりを見せている子ども達の取り組みや人権意識を、地域に発信し、学校と地域とに双方向のかかわりを持たせていくことが課題となっている。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

庄内町立余目第二小学校

特色の一点目は、人権教育を基盤として他教科・領域と効果的な関連を図った道徳教育の取組が実践されていることである。例えば、「大切ないのち」を主題とする学習は、生活科の内容や学級活動、朝の会や帰りの会等の日常活動とも結びつけられている。さらに、その後に「かぞくのためにできること」等の関連する内容を組み入れることにより、拡がりと深まりがめざされている。それらを、1～2ヶ月のスパンで単元として組み立てていることも参考になる。

特色の二点目は、豊かな地域素材を活用し、子どもたちに仕事への誇り、命を育むことやつなげていくことの大切さ、ふるさとへの愛着等を実感させようとする取組がなされていることである。

農業体験学習や夏宵祭り等を体験し、それらを守り継承させてきた人々の話を聞いた子どもたちには、自尊感情や地域の一員であることの自覚が高まっている。学校と地域が日常的に密接な関係にあることにより、学校からの意識的な発信によって人権が大事にされる地域づくりが展望できることを示す事例である。